



hida

広 報

ひだ

町 木



第 6 号

肥 田 町
郷づくり委員会
H9. 8. 1 発行

「郷づくり事例発表と

市長訪問について」

委員長 藤野慶三郎



五月二十五日、
彦根市文化プラザ
エコーホールで市
内全自治会長によ
る、ふるさと彦根
まちづくり会議の
第一部事例発表
に、肥田町郷づく
り事業の発表を再
三依頼され、新し
い肥田の郷づくりと題して、スライドを使
って、私と青木副委員長と共に約一時間に亘
り別添資料によって発表させて頂きました。

このような肥田町の組織的な活動と計画
に對しみなさんには十分ご理解頂き、肥田町
を彦根市にアピール出来たものと思っていま
す。

六月十九日には、藤野自治会長、青木副
委員長と共に市長とお出会ひして、事業の目
的等を再度説明すると共に、特に裏川の改修、
遊歩道の整備等の要望について約一時間、協
力、支援をお願いし、前向きに對処するとの
返答を頂きました。時期については、担当部
長と折衝していく予定をしております。町内
各位の御支援御協力を重ねてお願い致します。

「肥田町福祉介護講座

開催される」

肥田町自治会では、本年度はとくに町民皆
さんにとって、身近な問題を身近なところで
ご一緒に考えていこうをモットーに動いてお
りますが、その一つとして、今度新設しまし
た福祉部の最初の仕事として、肥田町独自の
企画として、福祉介護講座をとりあげました。
今回の開催については、稲枝地区社会福
祉協議会からも、始めての町単位の講座とい
うことで注目、稲枝地区社協の福祉活動の核
として大きい期待をいただいた次第です。

また町内でも、福寿会、婦人会、郷づくり委
員会、民生児童委員の方々の協力も得て熱い
スタートを切ることが出来ました。

市福祉事務所、市健康管理課のみなさん
のご協力も得、ご一緒に内容にも工夫を加え
共感のいただけるものになったと思います。

講座の構成は三回で、第一、高齢化の現
況をみんなで考えてみよう。第二、私が介護
される人になつた時。第三、私が介護する人
になつた時。と組み立て、体験学習を折り込
んだ勉強会です。



第一回目の七
月五日より、町
民六十名の応募

参加となり、講座では向こう三軒両隣りの
グループ討論、相互の体験学習も交え、超高
齢社会を身近に引き寄せ、先ずはその課題と
対策を町ぐるみで共有出来たことは、大きな
収穫であったと思われました。
ご参加頂きました皆さんに深く感謝いた
しております。

私も、この様な機会を重ねながら、
福祉の心のネットワークづくりを目指して行
きたいと念じております。

肥田町自治会福祉部

福祉介護講座に参加して

いつの日か介護される方になるか、また
介護する方になるかわかりませんが、いずれ
にしても避けては通れないことであり、この
度の講座には興味深く受講させて頂きまし
た。車椅子を体験したり、利き手を使わない
で字を書いたり、折り紙を折ったり、又介護
サービスの利用についても身近な問題である
だけに、和やかな中にも真剣にとりくめた意
義のある勉強会でした。

森野美佐子



きき手でない
手で細かい作業
をする。折り紙
を折る。最後ま
で折り終わるの
に、どれだけの
時間がかかった
ことでしょう。
いつも私が無
意識にしていた
ことが、少しの
体験で、こんな

に困難で、努力が必要であるかを改めて教え
ていただきました。その時、思いがけない工
夫と智慧も生まれるのではと気付いたこと、

多くの顔なじみの方々となごやかに参加でき
たことを喜んでいきます。

大村 知代

お誕生おめでとう

(平成9・1月～6月)

なまえ 生年月日 父の名

沙也香ちゃん 平成9・5・18 鹿島能孝さん
克ちゃん 〃 9・6・4 辻野清和さん

ご結婚おめでとう

大村嘉孝氏 長女 栄子さん

(平成9・5・5) 高槻市へ

郷づくり伝承事業「田植え」

子供会会長 元持 清



去る5月10日、山岸長兵
衛氏宅裏の水田において、
郷づくり伝承部長元持正三
氏にお世話になりました。今
日では、農家の子どもとは
いえ、田んぼの手伝いをす
ることはほとんどなく、誰
もが初めての体験ではなか
ったかと思ひます。

特に、低学年の子どもは、

足元が悪い中、今にも転げそうな足どりでしたが、
とても楽しそうに苗を植えていました。出来栄は、
いかにも子どもが植えた田んぼであることを現して
おり、またこれが良かったのではないのでしょうか。

収穫まで、お世話になる元持正三氏に感謝致し
ますとともに、秋の稲刈りを楽しみにしています。

「田植えに参加して」

家にはたくさん田んぼがありますが、

手で田植えをしたのは初めてでした。

最初は「ちゃんと植えられるかなあ。」と少し不安でした。田んぼの中に入ってみると、なかなか思い通りに歩けなかったり、真つすぐに植えたつもりでもまがってしまったりしてうまくいきませんでした。昔は全部手で植えていたので、「たいへんだっただんどうなあ。」と思いました。

そのうちだんだん慣れてきて、少し上手に植えられるようになり、楽しかったです。秋にはたくさんのお米がとれるといいです。

六年 山本 恵み

「楽しかった田植え」

5月10日、子ども会のみんなで田植えを行いました。はじめ苗をもらって、田の中に入りました。中に入ると、グニグニユして、気持ちよかったです。けれど苗を植えている中に、すごく楽しくなってきました。

苗は、なかなかまっすぐに植えることはできませんでした。これからも、またきかいがあればやってみみたいです。

六年 元持亜紗子

「肥田町小宮祭盛大に執行される！」



今年、公民社長として参加しましたのでいろいろと大変でした。慣れない着物や草履は勿論の事、参加者が巡行中に事故や怪我がないように祈るばかりで、無事終了した事は本当に良かったと思います。これからも伝統ある

祭として、続けていけるようがんばりたいと思います。

上町公民社長 薩摩 敬造



小宮祭には、公民社長として参加し、幸い天候にも恵まれ大変よい祭でした。

宵宮には、今年は住吉神社で、郷づくり委員会伝承部による太鼓のたたき方の指導が行われました。

太鼓のたたき方、また、鉦に太鼓を合わせるは大変むづかしかったです。古い時代からの文化財を大切に保存し、みんなで奉納した美しい伝統を受けつぎ、後世に伝えるよう努力したいものです。

登町公民社長 山本 利昭

稲枝地区福寿大学館外講座 開催される



7月4日、福寿大学講座が肥田町公民館で開催されました。講座は「肥田城と郷土の歴史」について、講師は郷づくり委員、崇徳寺住職、高瀬俊英氏による講話がありました。

受講生は稲枝地区内より約170名の参加者があり、大会議室を埋め、熱心に受講された。講座後、アトラクションとして、当町詩

吟クラブ員でもあり、錦城流師範の、筒井錦道さん、山岸錦花さん、藤野錦英さんによる、肥田町史詩吟詠が参加者全員にひろうされ、盛會裡に終了しました。

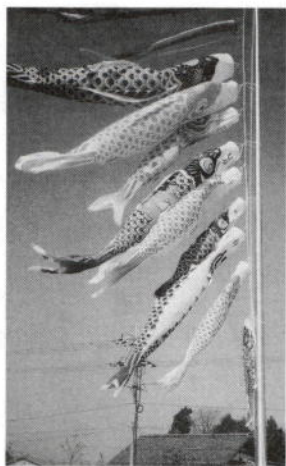
「うぐいすのぼり、うぐいすのぼり泳ぐ！」

この五月、宇曾川堤に鯉のぼりの群遊が目につきました。近所の男の子が出生の祝いに贈られたうちより、今はすでに立派に成長され、たいせつに仕舞われていた、吹流しや鯉のぼりを、寄贈いただいたものです。

肥田町の子どもたちが、これからもますます健康で、たくましく伸びてほしいことをねがって掲揚されたものです。ご寄贈のみなさんに心よりお礼申しあげます。

さらに将来は、多くの方々のご協力で、「鯉の川流し」なども考えられています。

郷づくり伝承部



「寄贈のみなさん 藤野信一さん

鶴野 功さん
元持正行さん

「鯉のぼり」寄贈者からの手紙

「鯉のぼりを、幟竿に掲げる。」と言われ

て、はて、うちねにもたしかある。どこへ片付けたかとふと思いました。もう久しくして忘れられていた鯉のぼりが、役員様のお陰で生き返りました。大空に泳いでいる鯉のぼりを見て、おじいさんが、苗のたくさん並んでいる畑の間から、スルスルと毎日毎日掲げといて下さったのだなあと、なつかしく鯉のぼりを見上げて、何か感謝の気持ちでいっぱいになりました。

藤野 敏子

今回、氏神様の屋根葺替えに就き、厄年前後の方達がアルミの幟竿を寄付して頂き、春祭りが終わった後、役員様の発案で、鯉のぼりを掲げて頂く事になりました。

押し入れで眠っていた鯉のぼりが、あたかも息子の中学生生活を祝うが如く、大空に揚々と泳いでいるので感無量でした。

鶴野 功

春祭りがすんだ時、幟竿に鯉のぼりが掲げたい話を聞いて、家だけで掲げるより、広くみなさんにも喜んでもらえるようにと子ども们的解を得て掲げてもらう事になった。幸い、同じ思いの鯉が三組集まり、肥田町の東の玄関の大空にむれをなして勇姿をあらわしました。

多くの道行く人々や子供達が笑顔で見上げる姿を見て、掲げてもらってよかったと思っています。来年もまた掲げてほしいと子供達と話しています。

元持 正行

今回は特集号のため「緑風」は省きました。